

四十七万平方キロの領土を賭けて 二頭が争った最大の闘牛

インドネシアは約一萬七千もの島から成り立つ世界一の島国。

その中でスマトラ島は面積四十七万平方キロの世界六位の大きな島である。

インドネシア総陸面積の二十五%を占め、また人口も四千五百万人が居住する。

この島の特徴は何といつてもその豊富な天然資源で、石油・天然ガス・ゴム・錫・石炭など、インドネシアの外貨獲得の半分はこれらの天然資源の輸出によるほどである。

それだけインドネシアにとっては重要な地域となっている。

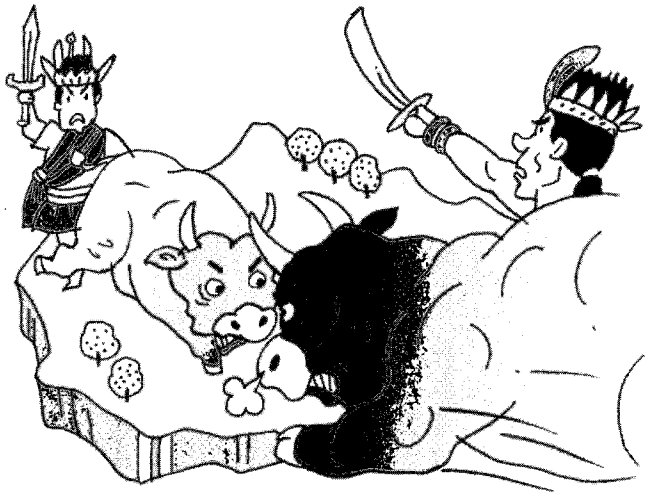
また、マラッカ海峡に接するところから、古くから東西交易の要でもあった。当然のごとく昔から国境問題での紛争の絶えない地域であった。

いまから千年以上も昔の話、現在はインドネシア領となっているこの島をめぐる、ジャワとマラヤで紛争が起きた。

このとき、何と闘牛で問題を解決したという伝説があるという。

スマトラ島の帰属をめぐるジャワとマラヤの間でもめぐりが起こり、戦争が避けられなくなった。

両国の大軍が向かい合い一触即発の事態となった。



両国の将軍は、無益な流血の惨事を避けながら、しかも問題の解決をはかる方法を検討した。その結果、両国を代表するに足る優れた水牛を一頭選び、これに一騎討ちをさせ、その勝負によって、島の帰属を決定するというものだった。

互いに選りすぐりの一頭が選出された。

両軍将士の見守るなか、二頭の激しい闘いが続けられた。二日二晩の闘いの後、ついにジャワの水牛が倒れた。

こうしてスマトラはマラヤの所有に帰した。

それ以来、スマトラはメナンカバウと改称されたが、これは、「水牛の勝利」という意味である。

いまもこの名称はメナンカバウ族に受け継がれ、強い誇りとなっている。

昔々のおとぎ話のような物語である。